

全国校友滋賀大会の集いの感想 (続編)

安松弘行



9月7日は、長浜、彦根方面のバスツアーを楽しみました。生憎、朝は雨模様でしたが、長浜に着く時分には天気回復で気分も良く、前日の大会で記念講演してくれた昭和59年文学部卒・昭和61年大学院卒の長浜城歴史博物館・館長太田浩司氏により、琵琶湖周辺の信長、秀吉の戦国時代の地理的背景、及び戦場となった城の配置を30分程講義して頂きました。

その後、長浜城の天守閣に登り、琵琶湖を眺めながら秀吉が最初に構えた城に立ち、時代は共有出来ないが、空間は共有出来た感あり。

その後、バスは一路、国宝彦根城へ。そこでは彦根藩30万石、第18代当主より、これまでの藩家系図の説明を受けました。彦根城は20年の長き歳月をかけて建築され、1602年に完成。関ヶ原の戦いで一番の働きをした事が徳川幕府に認められ、西国の堅固な守りも兼ねて、諸大名に城の石垣等を普請するための人夫を出すよう命令。守りを堅くした為、長年に亘り石垣が年代で変化しているのが見て取れます。尚、現代の土産のお勧めは、井伊直弼ゆかりの「埋もれ木」という、抹茶に合うお菓子と言われ購入してきました。

尚、私は9月5日、早朝の新幹線で京都へ赴き、午後5時からの前夜祭前に、大津レンタカーでクラス仲間と初めて世界遺産の比叡山延暦寺観光とドライブウェイ巡りをしてきました。

私が大会に参加した目的の一つは、九州の我が故郷の小学生時代、子供の頃一緒に仲良く遊んだ2年先輩と再会することでした。その先輩が比叡山の麓、琵琶湖近くに30年居住していることが最近分かりました。50年ぶりの再会を果たし、楽しかった子供時代の四方山話に花が咲いた事が、全国校友滋賀大会参加の旅のもう一つの収穫となりました。